



2025年8月21日（木）
愛知県陶磁美術館学芸課
担当 大西、佐久間
電話 0561-84-7474
愛知県民文化局文化部文化芸術課
振興グループ
担当 藤井、伊藤
内線 2459、5666
ダイヤルイン 052-954-6183

特別展

This is
SUEKI
—古代のカタチ、無限大！

This is SUEKI—Ancient Vessels, Timeless Forms—
2025年12月13日（土）～2026年3月8日（日）

1600年以上前の古墳時代に生まれたやきもの「須恵器^{すえき}」。朝鮮半島との国際交流の中で培われた須恵器の製作技術は、日本の陶磁器産業の扉を開きました。須恵器は東アジアとの文化交流や、日本の文化や美意識に合わせて発展を遂げ、多種多様な造形が次々と生み出されていきました。その造形の幅広さからは、古代の社会や人々の思考をうかがい知ることができます。

本展では、古墳時代から平安時代までの約500年間に全国各地で生まれた須恵器の名品を結集し、無限大に広がる古代の造形美を御紹介します。

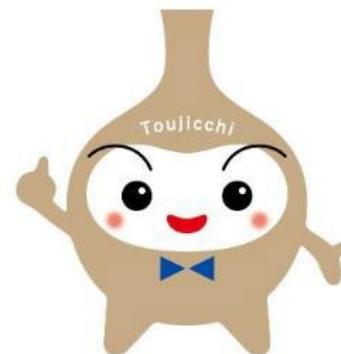
みどころ

- ◇ 古代史を愉^{たの}しみつくすためのパスポート「須恵器」の世界へようこそ！
- ◇ 洗練された造形美、あくなき造形への探求、ほんと安らぐゆるい造形まで！
- ◇ 愛知県陶磁美術館が30年ぶりに送る、全国規模の須恵器展！

- 1 展覧会名** 特別展「This is SUEKI—古代のカタチ、無限大！」
(英文：This is SUEKI—Ancient Vessels, Timeless Forms—)
- 2 会 期** 2025年12月13日(土)から2026年3月8日(日)まで
休館日：毎週月曜日
(ただし、1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館し、
1月13日(火)、2月24日(火)は振替休館)
年末年始(12月28日(日)から1月3日(土)まで)
- 3 開館時間** 午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
- 4 会 場** 愛知県陶磁美術館 本館1階 展示室1-A
(愛知県瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474(代表))
- 5 展示構成** 第1章「海を渡った技術と文化」
第2章「造形のうつりかわり」
第3章「ハレのうつわ～古墳時代の祭り～」
主な展示作品は別紙のとおり
- 6 観 覧 料** 一般 900円(団体 720円)、高大生 700円(団体 560円)、
中学生以下無料
※ ()内は20名以上の団体料金
※ 各種割引制度があります。
詳細は愛知県陶磁美術館の公式 Web ページで御確認いただくか、
「8 問合せ先」へお尋ねください。
(<https://www.pref.aichi.jp/touji/user-guidance/index.html>)
- 7 主 催 後 援** 愛知県陶磁美術館
愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
- 8 問合せ先** 愛知県陶磁美術館 学芸課 担当 大西・佐久間
〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町234番地
電 話：0561-84-7474(代表)
F A X：0561-84-4932
メール：touji@pref.aichi.lg.jp

全国各地の須恵器の名品が集結！

**古いのに新しく感じる造形から、使い方不明の
古代人の不思議なアイテム？まで幅広い須恵器の
カタチを堪能しましょう！**



当館マスコットキャラクター

とうじっち

This is SUEKI

須恵器

— Ancient Vessels, Timeless Forms —
— 古代のカタチ、無限大！ —



2025 12.13^{sat} → 2026 3.8^{sun}

 愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

報道用
リーフレット
第1弾

重要文化財 《子持蓋付古田皿蓋》 豊田市豊田大塚古墳出土 愛知県指定遺産 古墳時代後期(6世紀) 豊田市博物館蔵



こもちふたつきだいつきよんれんこ

① 《子持蓋付台付四連壺》 重要文化財 ※表紙作品

豊田市豊田大塚古墳出土 愛知県猿投窯産

古墳時代後期（6世紀）

豊田市博物館蔵

四つの壺を結合。四つの小壺付きの蓋を被せる。
古墳時代のまつりの場を演出したハレの器。

ごあいさつ

1600年以上前の古墳時代に生まれたやきもの
すえき
「須恵器」。朝鮮半島との国際交流の中で培わ
れた須恵器の製作技術は、日本の陶磁器産業の
扉を開きました。須恵器は東アジアとの文化交流
や、日本の文化や美意識に合わせて発展を遂げ、
多種多様な造形が次々と生み出されていきまし
た。その造形の幅広さからは、古代の社会や
人々の思考をうかがい知ることができます。

本展では、古墳時代から平安時代までの約500
年間に全国各地で生まれた須恵器の名品を結集
し、無限大に広がる古代の造形美を御紹介します。

愛知県陶磁美術館

そもそもそもそも須恵器とは何か？

いつ生まれたのか？

須恵器は古墳時代生まれのやきもの。
全国各地に大形の古墳が作られた古墳時代の中頃、4世紀末～5世紀初頭に出現しました。

何がすごかったのか？

縄文土器・弥生土器・土師器はじきと続いてきた日本古来の土器とは全く異なる新たな技術体系で作られたやきものので、その後の日本の陶磁器の源流になりました。

土師器までの日本のやきものが野焼きで焼かれるのに対し、須恵器は日本で初めて本格的な窯が用いられ、1,100℃以上の高温で焼かれた、硬く水漏れしにくいやきものです。

土師器

須恵器



左右とも本展览展示作品

SUEKI 須恵器 すえき

何を変えたのか？

水が漏れにくいという特性から、日常生活に不可欠な水の貯蔵や、酒等の醸造を行うことも初めて可能になり、日本の暮らしや社会を大きく変貌させました。

いつまで作られたのか？

須恵器は古墳時代に生まれて以降、平安時代の10世紀ごろまで日本各地で作られ、地域によっては室町時代の15世紀頃まで須恵器の系譜を引くやきものが作られ続けました。

はじき つぼ
(左) 《土師器壺》
関東地方出土
古墳時代前期 (4世紀)
愛知県陶磁美術館蔵

ゆうがいたんけいこ
(右) 《有蓋短頸壺》
岐阜県出土
愛知県猿投窯産
古墳時代中期 (5世紀)
名古屋博物館蔵

その一

SUEKI展 みどころ

重要文化財や各地の指定文化財
を含む**全国各地の名品が集結！**
古代史をたの愉しみつくすためのパ
スポート「須恵器」の世界へよ
うこそ！

その二

今に続く陶磁器産業の礎と
なった須恵器の技術。
洗練された造形美、あくなき
造形への探求、ほっと安らぐ
ゆるい造形まで！

その三

見せます！愛陶のホンキ。
やきものの殿堂「愛陶」
が約四半世紀ぶりに送る、
全国規模の須恵器展！

1 海を渡った技術と文化

須恵器は、土師器までの日本列島のやきものの伝統から生まれたものではなく、その生産には朝鮮半島の新技術の移植と、大々的な人的資源の投入が不可欠でした。須恵器の生産技術がもたらされた4世紀末から5世紀は、日本列島と朝鮮半島で人とモノの交流が盛んだったことが、古代中国の歴史書や日韓両国の発掘調査の成果からも明らかにされています。

当時の朝鮮半島は、高句麗^{こうくり}、百済^{くだら}、新羅^{しらぎ}が列挙した三国時代で、百済^{くだら}と新羅^{しらぎ}の間に小国家群からなる加耶^{かや}、百済^{くだら}の南部には馬韓^{ばかん}が位置する等、複雑な情勢でした。朝鮮半島では須恵器の源流となった陶質土器^{とうしつどき}が生産され、半島内の各国・地域ごとで特徴を持った形が製作されました。特に加耶や馬韓等の朝鮮半島南部の陶質土器の技術が伝来し、日本列島産の陶質土器＝「須恵器」が生み出されました。



須恵器生産が開始された古墳時代中期の須恵器は、ルーツとなった朝鮮半島の陶質土器の特徴を色濃く残した作例が多くあります。ここでは、朝鮮半島の陶質土器と対比しつつ、須恵器の幕開けを御紹介します。

(4世紀末から5世紀頃の朝鮮半島)

朝鮮半島・**陶質土器**



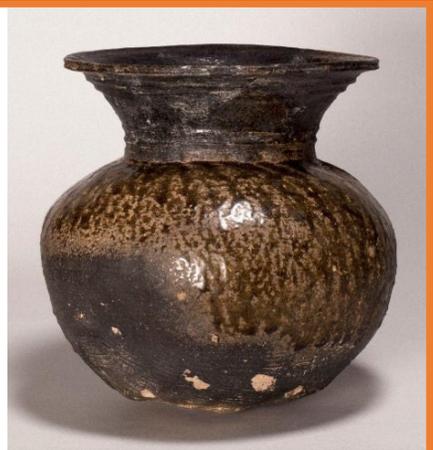
A 《広口壺》 韓国・加耶
三国時代 (5世紀)
愛知県陶磁美術館蔵 (小池喜久代氏寄贈)

瓜二つ!



技術は海を渡って

日本列島・**須恵器**



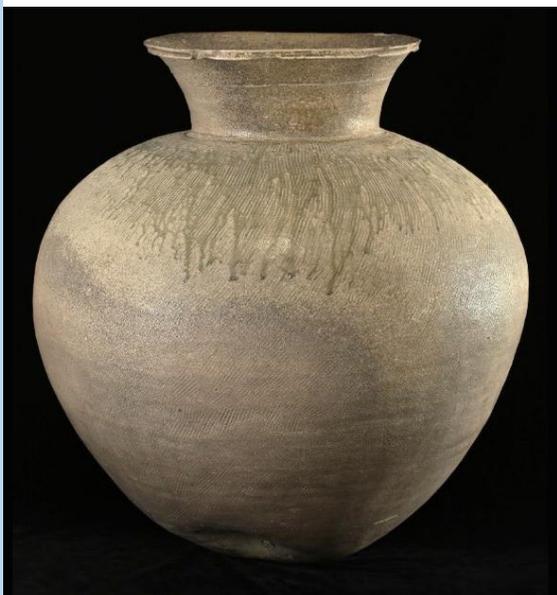
B 《広口壺》 大阪府陶邑窯産
古墳時代中期 (5世紀前半)
愛知県陶磁美術館蔵 (小池喜久代氏寄贈)



まるまどつきだいつきつぼ
② 《円窓付台付壺》

名古屋市志賀公園遺跡出土
愛知県猿投窯産
古墳時代中期 (5世紀)
愛知県埋蔵文化財調査センター蔵
(愛知県埋蔵文化財センター写真提供)

すかしこう
台の透孔は朝鮮半島風、胴の窓は愛知風。
日本で未だ類例のない逸品。



おおがめ
③ 《大甕》

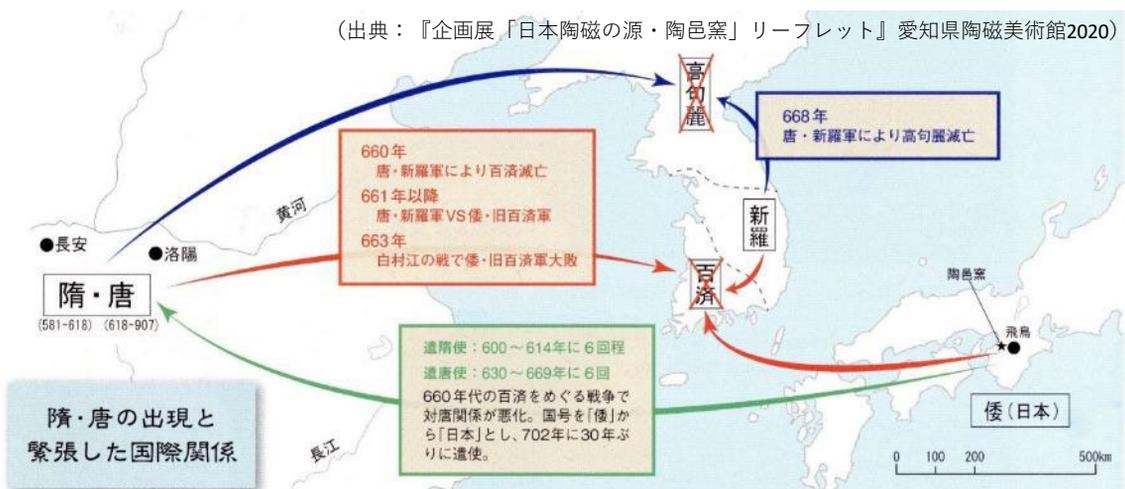
愛知県猿投窯産
古墳時代中期 (5世紀)
個人蔵
(六田知弘氏撮影)
「水漏れしない」須恵器のメリットを
最大限活かした大甕。
確かな技術が成せる逸品。

2 造形のうつりかわり

須恵器の生産は5世紀を通して定着し、日本列島各地へ拡大しました。しだいにルーツである朝鮮半島の陶質土器の形を取捨選択しつつ、日本列島の文化や美意識に合わせて須恵器の造形は変化していきました。7世紀は古墳時代末期、あるいは飛鳥時代に区分されますが、伝来以来の須恵器の形が徐々に姿を消し、奈良・平安時代に連なる新たな形が登場することで、器形の世代交代が行われました。

7世紀は隋・唐の出現により東アジア社会は変革期を迎え、日本も中国・朝鮮半島に学びつつ新たな国づくりを進めていました。須恵器の形の刷新も、当時の社会・文化の変化と連動しています。また、仏教文化の伝来・定着に伴い仏教で用いられた金属器等の形が須恵器にも取り入れられ、古墳時代とは異なる飛鳥～平安時代の須恵器の世界が花開きました。

ここでは、5～9世紀（古墳時代～平安時代）の須恵器について、典型的な作例とその変遷を九州、近畿、東海、関東で比較紹介し、各時期の象徴的な造形も御紹介します。

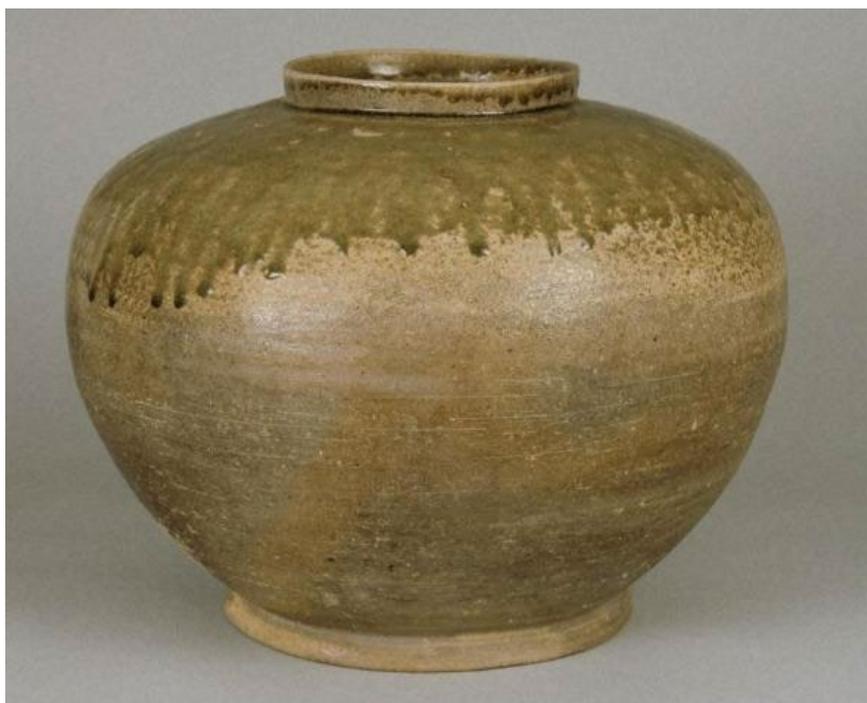




ちょうけいへい
④ 《長頸瓶》

神奈川県小田原市久野の
古墳出土
静岡県湖西窯産
飛鳥時代～奈良時代
(8世紀前葉)
MOA美術館蔵

7世紀に定着した新たな形。
シャープなプロポーション。



たんけいこ
⑤ 《短頸壺》 愛知県指定文化財
名古屋市守山区小幡緑地公園出土 愛知県猿投窯産
平安時代初期～前期 (8世紀末～9世紀前葉)
愛知県陶磁美術館蔵 (一盛昭男氏寄贈)
金属器ルーツの造形。仏教と深く関わる火葬骨壺。

名古屋市内の公園から出土
平安時代の高貴な人物の骨壺

3 ハレのうつわ～古墳時代の祭り～

須恵器の造形は多岐にわたりますが、日用の食器や貯蔵器だけではなく、儀礼や祭りに特化した道具も存在します。特に古墳時代（5～7世紀）には、装飾須恵器・特殊須恵器と称される祭りに特化した作例が多く存在し、須恵器の歴史の中で最も多様な造形を展開しました。

装飾須恵器は、同じ器をいくつも繋げたもの、壺等の肩や蓋の上に小壺を乗せたもの、動物や人物の小像を乗せたもの等、非常に手が込んでいます。装飾須恵器は古墳に副葬されたものが大多数で、死者をとむら吊い、集団の結束を再確認する場で使用された特別な器でした。特殊須恵器は異形の器で、用途不明の不可思議な造形もありますが、古墳の副葬品が多く、やはり特別な場での器でした。装飾須恵器や特殊須恵器にはルーツを東アジアに求められるものもあり、古墳時代の国際性の一端もうかがえます。

ここでは須恵器の装飾・造形の極みと言える古墳時代のハレの器、装飾須恵器・特殊須恵器の世界を御紹介します。

異国情緒のある
不思議なカタチ



かんじょうへい
⑥ 《環状瓶》

古墳時代後期～末期
（6世紀末～7世紀前半）
名古屋市博物館蔵
異形の器。
ドーナツ形の瓶、
しっかり水が入ります。
特殊須恵器の典型。

動物の小像で飾る



とりちゅうふたつきだいつきぼ

⑦ 《鳥鈕蓋付台付壺》

愛知県指定文化財
岡崎市岩津1号墳出土
愛知県猿投窯産
古墳時代後期～末期
(6世紀後葉～7世紀前葉)
岡崎市美術博物館蔵

魂の象徴「鳥」を蓋に乗せて。
日本武尊の白鳥伝説との関係も。
装飾須恵器の典型。

同じ形を
連結させる



だいつきななれんばい

⑧ 《台付七連杯》

名古屋市池下古墳出土
愛知県猿投窯産
古墳時代後期(6世紀前葉)
名古屋市博物館蔵

多くの飲食物を盛り付けた？
複雑な造形の中に、
製作者の努力の跡も。
装飾須恵器の典型。



異国情緒のある
不思議なカタチ

かわぶくろがたへい

主な展示作品

⑨ 《皮袋形瓶》

岐阜県岐阜市上加納稲荷神社出土 古墳時代後期（6世紀）

愛知県陶磁美術館蔵

北方遊牧民族が用いる皮袋に由来。

須恵器に見える古代の国際性。

予告

第2弾 SUEKI展記者発表

11月20日（木）

追告情報①

出品される須恵器の名品情報を続々と解禁します！

追告情報②

本展関連イベントについて発表します！

※本リーフレットに掲載した作品の高精細画像につきましては、
愛知県陶磁美術館担当までお問い合わせください。